

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	93 文化祭開催経費	会計	01	一般会計
		款	02	総務費
		項	01	総務管理費
		目	07	文化振興費
基本 施策	35 文化・芸術により、豊かな感性と創造性を育む	細目	128	文化振興経費
		細々目	52	文化祭開催経費
行革大綱の重点事項番号				
担当部課	コード	11300	担当者氏名	西村 澄子 連絡先 (内線) 22 - 9621 2116
	名称	企画総務部企画課		

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	芸術文化活動に取り組む人及び団体 ※対象件数
成果(どうする)	活動の成果を発表する場が提供され、参加者(団体)相互の文化意識を高め、それぞれの活動内容がより充実する。
根拠法令・要綱等	
開始年度	平成 16 年度 関連事業
終了年度	平成 年度
H22 事業内 容	2010伊賀市民文化祭実行委員会に事業を委託。 市内の文化団体代表者らで実行委員会を組織し、事業計画・運営を行った。 市広報、行政チャンネルで市内全域から参加者を募集。 文化活動の発表として、市内ホール・展示会場で舞台公演および作品展示を行った。
社会情勢 の変化等	

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	
委託先	
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の 類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H21	H22	H23	H24
開催延日数		日	目標 10	目標 10	9	9
			実績 12	実績 13		
実行委員会数		回	目標 3	目標 3	3	3
			実績 3	実績 3		

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H21	H22	H23	H24
参加団体数		発表の場を設けることで活動内容が一層向上する。	団体	目標 100	目標 100	100	100
				実績 91	実績 89		
入場者数		芸術文化作品を鑑賞することにより文化意識の向上につながる	人	目標 5500	目標 5200	5200	5200
				実績 4923	実績 4831		

投入コスト	直接事業費計(A)	H21 決算	H22 決算	H23 当初予算	H24 当初要求
		(千円)	(千円)	(千円)	(千円)
Aの 財源 内訳	国庫支出金	2,104	1,972	1,500	1,500
	県支出金				
	地方債				
	その他				
	一般財源	2,104	1,972	1,500	1,500
	事業投入人件費(B)	0.2人 1,440	0.2人 1,440	0.2人 1,440	0.2人 1,440
	フルコスト(A)+(B)	3,544	3,412	2,940	2,940

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	
	個人の方だけでは対応し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業	○
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	
市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業		
国や県、民間が同様のサービスを提供している事業		
市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業		
民間のサービスだけでは地域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業		
受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業		
事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業		
【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】		
財政状況を考慮し、事業を休止した場合、市民生活への影響が大きい事業		
【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】		
有効性	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。	
	基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高	○
	サービス水準や対象を見直す余地がある。	
達成度	当初設定した計画を 100% 実施している。 【計画に遅れが生じている場合、改善策】	
	予算の繰越の有無 無	
	【予算の繰越がある場合、繰越の種類】	
効率性	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。	
	基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。	
	【事業名】	
	受益者負担を求めることができる事業である。	○
	全体コストにおける負担構成は適正である。	○
	コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況	
改善策	22年度からイベントちらし、ポスターの配布先についてみなおし、積極的な事業周知を行う。
昨年度の取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいる 【詳細】 ポスター・チラシを各自治会・地区市民センターへ配布、周知を図った。

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	藤山 善之
事業の方向性	【方向性】 現状維持 【理由】 日頃、芸術文化活動に取り組む団体の発表および交流の場として必要である。また、交流することでお互いの文化意識の向上が期待できる。
現時点における課題、その他	会場使用料の予算内で各部門の発表活動ができるように検討、集客が難しい部門については同時開催も考える。
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	平成23年度は、舞台部門の洋楽・洋舞・ライトミュージックを除いた部門の開催日を2日間に集約。日程をタイトにして集客増を見込む。